

“ちいさな企業” 成長本部（長野県長野市）
議事概要

中小企業庁

- ・ 日時：平成25年8月9日（金） 17：00～19：00
- ・ 場所：長野県長野市（ホテルメトロポリタン長野 浅間）
- ・ 「“ちいさな企業” 成長本部」行動計画等に関する取組をご紹介いただくとともに、意見交換を行った。
- ・ 参加者からの主なご意見は以下のとおり。

＜中小企業・小規模事業者＞

- 商店街は後継者問題、空き店舗の再生といった課題を抱えており、個々の店舗がしっかり取り組むことで魅力のある商店街が形成される。将来の店主を担う若者の育成に力を入れることが重要。
- 住みよいまちづくりの中の商業の担い手として、商店街としてしっかりとしたグランドデザインをもち、若者がビジョンを描くことで世代交代にも対応できるよう、行政、商工会議所等とも連携してしっかりと取り組んでいきたい。
- 新陳代謝の取組として、新人を採用したところ、社内が活性化した。また、長期間働いてもらえるよう、年功序列賃金制度を導入した。
- 中小零細が国際展開するには、採算の観点から、個社ではハードルが高いので、複数の業者で連携し、負担を軽減して、行っていきたい。
- 小規模事業者にとっては、社長と従業員も同じく開発に携わっているので、小規模事業者の実態を踏まえた、補助対象の検討をしていただきたい。
- 地元の事業者は家族経営がほとんどで、承継が課題となっており、国や公共団体の支援が無いと難しい。
- 事業を拡大させることより、地元の郷土食を守り、次世代に繋げていく方向を重要視していきたい。
- 新しい取組を行うためには、新たな人材が必要であり、そうした人材の育成が

必要であると実感。

- 観光地ではあるものの、地元で暮らす私達が自信をもって取り組んでいくことが大前提にあり、その上に観光が成り立っていくと考えている。
- お祭り等のイベント行事はどうしても費用がかかるので、助成金等を活用させていただきたい。地域の繋がりは災害時の備えにもなる。
- どこで事業展開するにあたって、現場で汗をかく人材が不可欠で、中小企業にとっては一番足りないリソースであるので、人材面での支援をいただきたい。
- 海外の展示会は、来訪者が非常に多国籍に及んでいるが、国内の展示会では、中国、韓国、台湾等に限られており、海外のバイヤーが自発的に国内の展示会に参加し、国内で世界のニーズを把握できるような施策が必要。
- グローバルに展開を目指している会社にとって、県産品を使うことを地域資源関係の補助金の要件にしていることは、足かせになっている。
- 介護・福祉は成長分野に入っているが、自社としては積極的な参入というより、必要に迫られた参入になっているので、女性が仕事を続けられるような施策に取り組んでいただきたい。
- 善光寺では6年に1回御開帳があり、観光客は一気に増えるが、このタイミングで類似品が出回ることが多い。一見同じものは簡単に作れるので、そういったものが出現した際は差別化を行う必要があり、原材料の地元調達や信州大学と連携した品種改良等に取り組んでいる。
- 大企業では人事異動が激しいため、責任の所在が曖昧になっている。中小企業は個人で責任をとっているため、重みが全く異なる。

<支援機関等>

- 企業のライフサイクルは、創業、成長期、壮年期、衰退、そして死という過程を経るが、創業ステージと衰退ステージは行政や外部の有識者の支援が必要。
- 海外に進出するためには、法律、会計、税務の専門家が必要であるが、費用面で中小企業が利用することは困難。

- マーケティング支援として、大手企業の受発注の斡旋を行っているが、最近の開発段階から外注する大手企業があり、中小企業にとってはチャンスと思えるような案件がある。
- ネットワークの構築は容易なものではなく、５年から１０年をかけて形成されるものが多いので、長期に渡って連携が形成されるという要素を施策にも盛り込んでほしい。
- 地域のリソースに気づいていない事業者もあり、その地域では当たり前となっていることでも、世に広めて地域活性化のビジネスチャンスに繋げていきたいと思う。
- 中小企業の経営者の８割強の方が事業承継を一番の課題としている。
- 中小企業も支援策の効果を実感しているので、現在取り組んでいる事業を支援すべく、今の支援策をしばらく継続的に実施して欲しい。また、補助金等に採択されなくても、補助金の申請をきっかけに次への行動に繋がることもある。
- 長野県としても、シンガポールと上海に駐在員事務所を置き、JETRO等とも連携して、事業者が海外進出することを推奨している。
- 長野県の中小企業はしっかりとしたコンセプトを持っており、将来展望をもっている所以、行政として意を強くしたところ。



以上